

平成 27 年度 岡山大学大学院法務研究科
法学既修者後期入試 試験問題

公 法 系（憲法、行政法）

解答上の注意

1. この問題冊子は、表紙を含め 2 枚である。
2. 問題には、問題 1 と問題 2 がある。配点は、問題 1 が 50 点、問題 2 が 50 点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は、問題 1 用と問題 2 用の 2 枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙 1 枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し、また試験科目欄に「公法系」と記入すること。なお、整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後、問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は、黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 試験終了後、解答用紙と貸与した六法を回収するので、指示があるまで席を立たないこと。
8. その他は、すべて監督者の指示に従うこと。

【問題 1】（解答の冒頭に「問題 1」と記入すること。）

公立高等学校の入学式・卒業式等における国歌斉唱に際して、教員に対し、起立して斉唱するよう命じる職務命令の合憲性について、①最高裁判所が示した合憲性判断の枠組みを紹介し、②これに対するあなた自身の見解を書きなさい。

【問題 2】（解答は、【問題 1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題 2」と記入すること。）

次の用語について説明しなさい。

- ①行政裁量
- ②行政指導
- ③行政手続

《公法系問題 以上》

【出題意図】

問題 1

本問は、国歌斉唱事件（最二判平成 23 年 5 月 30 日民集 65 卷 4 号 1780 頁）という基本判例について問うことで、基礎的な知識の有無を測ることを目的としていた。

問題 2

行政法総論および行政救済法の基本的な論点の中から、行政裁量、行政指導、行政手続について説明してもらい、基礎的な知識を確認する問題を出題した。